



# 飯田市 歴研ニュース

News Letter

No. 125

The Iida City Institute  
of Historical Research

2023年8月1日 発行

飯田市歴史研究所

〒395-0803

長野県飯田市鼎下山538

TEL 0265-53-4670

FAX 0265-21-1173

E-mail iih@city.iida.nagano.jp



## 第20回 飯田市地域史研究集会

## 飯田下伊那の学制と地域社会 —「人づくり」から「ひとなる」へ—

9月9日(土)・10日(日) 飯田市役所 C棟3階会議室 / オンライン

地域の中で学び育ち一人前になることを「ひとなる」といいます。そのあり方を大きく変えたのが、近代の学校の登場でした。以来150年、学校と地域はどのように関わり、人びとの学びを支えてきたのでしょうか。今回の研究集会では、飯田下伊那における学びの歴史をたどるとともに、歴史を記録し未来へつなぐ今の取り組みにも目を向け、あらためて「ひとなる」ことの意味を考えます。

9日(土) 10:00～17:00

## 第1部 飯田下伊那における学びのあゆみ

講演 地域と学校の関係史 —地域にとっての学校 / 学校にとっての地域— / 木村 元 (青山学院大学)

報告 小学校の設置・運営と地域社会 —飯田下伊那の事例にそくして— / 多和田 真理子 (國學院大学)

報告 地域と共に歩む下伊那農業高校 / 遠山 善治 (下伊那農業高校創立100周年記念誌編集委員会)

報告 「松下千尋日記」にみる農村青年の自己形成 / 田中 雅孝 (歴史研究所調査研究員)

10日(日) 10:00～15:00

## 自由論題報告

報告 飯田における百済系土器とその意義 / 春日 宇光 (飯田市教育委員会)

報告 明治・大正期の松川入における河川と山林利用 / 伊藤 悠 (歴史研究所研究員)

## 第2部 学びの歴史を記録し引き継ぐ

報告 満州開拓慰霊碑が子どもたちに遺したもの —千代小学校6年生の学び— / 坂下 力 (元千代小学校)

報告 記念誌の制作意義と学校に残したい資料について / 田添 莊文 (竜丘小学校開校150周年記念誌編集責任者)

報告 住民による下市田学校の再生 / 松島 高根 (下市田学校応援隊)

■資料代：500円(2日間共通) ※高校生以下は無料です

■申込方法：①会場(定員80名) ②オンライン のどちらかでご参加いただけます。  
電話、FAX、メールのいずれかで参加方法と電話番号をお知らせください。  
※オンライン参加は郵便番号と住所もお知らせください。  
右のQRコードからもお申込みいただけます。

■受付期間：①会場は8月1日(火)～9月7日(木)  
②オンラインは8月1日(火)～8月24日(木)

申込QRコード



# 新スタッフ紹介



いわた あいづ  
岩田 会津 研究員

1993 年生まれ 東京都出身  
東京大学・修士（工学）  
専門：建築史、都市史

本年の7月から研究員として着任いたしました。これまでは大学院で建築史分野の学生として、神奈川県鎌倉地域を対象に、鎌倉・室町時代の都市空間と、それが廃れて江戸時代に村に変わったあとの空間のあり様について研究してきました。また、飯田・下伊那地域では修士課程のときから、伊藤毅先生（東京大学名誉教授・青山学院大学客員教授・歴史研究所顧問研究員）主催の調査に参加し、阿智村清内路や飯田市遠山地域等で、建築の実測や山里集落の景観分析に関わっています。そのなかで感じるのは、天竜川沿いの河岸段丘地形と、その東西の山筋・谷筋が織りなす豊かな自然環境、そしてそのなかで営まれる人々の固有の暮らしが、この地域の大きな特徴であり魅力であるということです。この地域の建築もそうした周辺環境のなかで建てられ、またそれ自体、歴史的環境の一部として人々の暮らしを規定しつつしてきました。ですので今後は、建築のかたちだけではなく、周辺の地形・集落・自然環境、あるいは人々の暮らし・生業などとの関係にも目を配りながら、建築史担当の研究員として調査にあたっていく所存です。

また、あまり明らかになっていない中世景観についてもアプローチしたいと思っています。この時代は建築遺構がほとんどなく、地図史料も限られるのが難点ですが、実はこれまで取り組んできた鎌倉の研究でも、似たような状況下で明治時代の地籍図をもとに中近世の景観復元・分析をおこなってきました。そのときの手法も活かしつつ、調査・研究を進めていきたいと考えています。今後何卒よろしくお願いたします。



いとう はるか  
伊藤 悠 研究員

1995 年生まれ 熊本県出身  
東京大学・修士（経済学）  
専門：日本経済史

本年の7月に歴史研究所に着任しました。大学院では日本経済史を専門に、近世・近代移行期の環境と地域社会・経済の関係の変化を研究してきました。特に飯田では、松川入を対象として、同山林での薪炭材の伐採と、蚕糸業をはじめとする地域産業や村財政との関係を研究しています。薪炭は高度成長期に至るまで生活や産業に不可欠のエネルギー源であり、その需給や利用方法は近現代を通じて大きく変化してきました。近代日本の経済発展には在来産業や地域社会が重要な役割を果たしてきましたが、薪炭というエネルギー源はそれらの発展や変容と密接な関わりを持っていました。

これまでは近世末から明治期にかけての地域財政構造の変化が山林利用に与えた影響を研究し、近世来の利用慣行をベースとしつつ、松川入が明治期以降の地域の収入源として重要な役割を果たすようになったことを分析してきました。さらに下伊那での蚕糸業の発展に伴い、松川入の山林を地域のためにどのように利用するか議論が重ねられていき、薪炭林は地域経済を支える存在と認識されていきます。山林や河川といった環境は一様ではなく、地域社会のあり方によってそうした環境との関わり方は多様です。飯田下伊那でも松川入以外の

山林やその他の自然環境は様々であり、山林荒廃にどう対応したのか、利害関係の衝突をどのように調整したのかなど、それらの歴史を改めて研究していきたいと思います。

地域の役に立てるように視野を広げながら活動していきます。どうぞよろしくお願いたします。



## 歴史研究所の思い出

新海 愛（元歴史研究所職員）

私は、1998年、結婚後の居住地を長野県と定めて、夫が長野県内の企業に就職し、愛知県の実家から飯田市へ転居してきた。同年9月までは、ほぼ毎週末、JR飯田線で豊橋～飯田間を往復しており、飯田線には随分とお世話になった。その後、私も10月頃から飯田市へ転居し、12月から、縁あって、飯田市誌編さん室でアルバイトとして、翌年4月からは臨時職員として勤務するようになった。

大学を卒業し結婚するまでの1年9ヶ月は、仕事で近世史の史料調査に関わっていたため、飯田市へ転居した後も同様の仕事に就くことができたのは、まさに僥倖だったと思う。そして、飯田市誌編さん室に勤務するようになり、まず驚いたことは、当地に残る史料の豊かさである。私自身、大学時代はゼミで東三河の、卒業後の1年間は愛知県内の主に西三河地方の地域史料の調査に関わっていたが、1つの市でここまで多くの史料が残り、また、資料館等ではなく、個人宅にそのまま史料が残されているということは珍しかったからだ。

その後、飯田市歴史研究所ができ、地域史料の悉皆調査を行い、保存される方向となったことは、そのこと自体が、市民の貴重な財産であると思う。私が歴史研究所を辞めてすでに10数年が経過したが、勤務中には、飯田線の取材をしたことや、松尾の森本家の史料に東三河の国学者（大学時代に史料を筆耕していた）からの賀状を見つけちょっと嬉しかったことなど、思い出に尽きない。現在は、まったく異なる職に従事しているが、当時の経験は、自身の「生きる力」として根付いていると感じている。

最後に、関係者の皆様におかれては、設立20年という節目に、次なる展望を抱かれているかと思料するが、一市民としては、公立の歴史研究所として、他の研究機関、文化施設、そして公教育を含む教育機関と深く連携して、活動を拡大されることを期待する。

## 地域史講座

### 山里 南信濃のあゆみとくらし



<講師>

前澤 健（特任研究員）「樽木と遠山六カ村」

太田 仙一（調査研究員）「和田村の赤痢流行と行政の混乱」

田中 雅孝（調査研究員）「遠山の茶栽培と地域の変貌」

<日時>

9月30日（土） 14:00～16:00

<会場>

南信濃地域交流センター

歴史研究所では、近年の調査成果を踏まえ、昨年度末に『史料で読む飯田・下伊那の歴史 3 山里 南信濃のあゆみとくらし』を刊行しました。本書は、地域に残された豊かな史料群の中から近世～現代の史料 12 点をえらび、それらをじっくりと読み解くことから、南信濃の歴史を具体的に描き出そうとしたものです。本講座では、このうち江戸時代の樽木の伐り出し、明治期の赤痢流行、戦後の茶栽培という 3 つのトピックを取り上げて、南信濃の姿を考えます。

## トピック展示

# 「飯田歌舞伎座

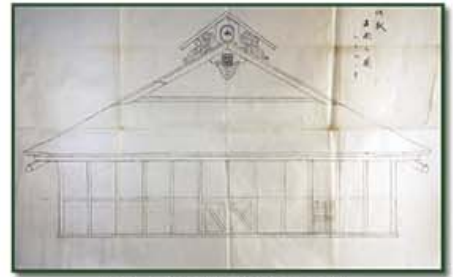
—明治飯田を彩った芝居と相撲の殿堂—

8月29日(火)～10月15日(日) 飯田市美術博物館

飯田市美術博物館と飯田市歴史研究所の共催で「飯田歌舞伎座—明治の飯田を彩った芝居と相撲の殿堂」を開催します。明治32(1899)年、羽場坂を登ったところ(現在の旭町)に「飯田歌舞伎座」と名付けられた大劇場が開場します。そのこけら落しに行われた東京歌舞伎の大看板五代目尾上菊五郎興行は、長らく飯田の語り草となりました。しかし、残された史料が少なく幻の劇場でもありました。この度、同劇場に関する史料が多数見つかり、その実態の一端が明らかになりました。本展ではこれらを紹介します。



菊五郎一座飯田乗込写真  
／江取光雄氏所蔵



飯田歌舞伎座正面の図  
／飯田市歴史研究所蔵

史料には劇場の見取り図があり、建物の様相や規模などを知ることができました。また、菊五郎公演の関係写真や辻番付、飯田で販売されたと思われる役者絵、元善光寺に奉納された額は、当時の飯田町の熱気を伝えています。さらに、同劇場では下伊那全郡相撲大会が行われ、その番付には大勢の名前が記されています。このような盛り上がりを見せた劇場も、わずか10年で廃場届が出されます。しかし、その後も川上貞奴の川上座や中村鴈次郎の公演が行われ、輝き続けました。展示を通して、この劇場が明治の飯田の街を明るく元気に彩った様子をご覧ください。



「三番叟」菊五郎  
／田口恒博氏所蔵

## 文化講座

10/1(日) 13:30～15:00

飯田市美術博物館

講師：竹村 雄次(歴史研究所特任研究員)

お申込み・お問い合わせは飯田市美術博物館(☎0265-22-8118)まで

## 定例研究会

※聴講をご希望の方はお電話ください

### ▶ 貢租制度としての「樽木成」の成立

報告者 前澤 健(歴史研究所特任研究員)  
開催日 8月26日(土)  
時間 14:00～16:00  
会場 歴史研究所 研修室

### ▶ 王子製紙の山林労働者雇用と遠山地域

報告者 太田 仙一(歴史研究所調査研究員)  
開催日 9月16日(土)  
時間 14:00～16:00  
会場 歴史研究所 研修室

## 歴研ゼミ&ワークショップ 8月・9月の予定

会場：歴史研究所 研修室

受講生  
募集中!!

### 近世史ゼミ

担当：羽田真也(研究員)  
8月9日・23日／9月13日・27日  
(第2・第4水曜日) 18:30～20:30

### 満洲移民研究ゼミ

担当：本島和人(調査研究員)  
齊藤俊江(調査研究員)  
第139回 8月5日／第140回 9月2日  
(第1土曜日) 10:00～11:40

### 近現代史ゼミ

担当：田中雅孝(調査研究員)  
8月26日／9月16日  
(第4土曜日) 10:00～11:40  
※9月は23日が祝日のため16日に変更

### 思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場  
8月2日・16日／9月6日・20日  
(第1・第3水曜日) 19:00～21:00

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL：0265-53-4670

開所時間：午前9時～午後5時 休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日  
メール配信への切り替えをご希望の方は、E-mail: [iihr@city.iida.nagano.jp](mailto:iihr@city.iida.nagano.jp) まで